



カルチャートーク Creators@Kamogawa

Creators@Kamogawa は、日本とドイツのクリエイターが、アートやカルチャーに関連する話題について語り合うイベントシリーズです。

第1部：公園という宇宙

現代における公園は、まさに都会のオアシスです。散策やデートや自然観察をしたり、子供を遊ばせたり、動物を散歩させたり、ジョギングやテニスで汗を流したり。ときには政治的な集会やデモに使われることもあります。人間が都市に集中し、庭付きの家に住むことが年々難しくなっている昨今、都市における緑地の重要性はますます高まっていると言えるでしょう。公園は今日どのようにあるべきか。自然や環境に関心を抱く美術家と、庭園史やランドスケープデザインに明るい美学者が、豊かな都市生活について語り合います。

第2部：変容する身体

古来「身体」は、哲学的な思考のみならず、芸術的な行為の対象でもあり続けています。それ自体が彩色されたり彫られたりし、絵画や彫刻のモデルとなり、自ら声を発したり踊ったり、道具的なものとして操られることもありました。医学やテクノロジーの進歩により、身体を取り巻く環境は日に日に変化しています。表現の主体としての、また媒体としての身体には、どんな可能性が秘められているのでしょうか。体と心について考え続けてきた美術家と美術批評家／解剖学者が、身体とアートの関係について意見を交わします。

トークの後は、館内のドイツカフェ『カフェ・ミュラー』にて、ドイツビールやおつまみを片手に交流をお楽しみください。交流会では、滞在中のドイツ人芸術家の作品も、モニターでご覧いただけます。



主催・お問い合わせ
Goethe-Institut Villa Kamogawa
京都市左京区吉田河原町19-3 (川端通り荒神橋上る)

TEL: 075-761-2188 (内線31#)
info-kyoto@goethe.de
www.goethe.de/villa-kamogawa



〈交通のご案内〉

京阪電車 出町柳駅より南へ徒歩8分
京阪電車 神宮丸太町駅より北へ徒歩6分

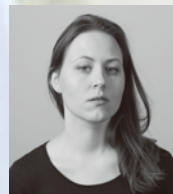
館内のドイツカフェ『カフェ・ミュラー』も、ドイツビールや軽食などをご用意して、皆様のお越しをお待ちしています。(カフェ・ミュラーでの飲食は各自ご負担ください)



© Saskia Groneberg, Junge, Fotografie, 2014

サスキア・グローネベルク (美術家) Saskia Groneberg (Bildende Kunst)

1985年生まれ。シュトゥットガルトでコミュニケーションデザインを、ライブツィヒで写真を学んだ。人間環境や人間が作り出す「自然」を題材にした写真やブックデザイン・映像作品等を創作。2017年、ブリクテ国際写真賞の最終候補に選出され、ロンドンV&A博物館等での世界巡回展に参加。ウィラ鴨川滞在中は、日本庭園などに見られる自然と建築の調和を起点に、自然との関わりにおける日本独特の精神性や、美意識のグローバル化をリサーチする予定。 saskiagroneberg.de



山内朋樹 (美学・庭園論、庭師) Tomoki Yamauchi (Ästhetik, Gartenkunst)

1978年兵庫県生まれ。京都教育大学教員。フランスの庭師ジル・クレマンの研究を軸に、都市の片隅に息づく生態系に現代の庭の可能性を探っている。現在は庭の石組を身体と相関的な動的構造体として分析するプロジェクトや石組から庭の見方を探るフィールドワークを展開中。論考に「なぜ、なにもないのではなく、パンジーがあるのかー浪江町における復興の一断面」(『アーギュメント』#3、2018年)、訳書にジル・クレマン『動いている庭』(みすず書房、2015年)。



アン・ラファン (美術家) An Laphan (Bildende Kunst)

1990年生まれ。カールスルーエとミュンヘンでメディアアートや映像学などを学んだ。在学中より数多くのグループ展に参加し、柿本人麻呂の和歌をもとにした短編映像作品『ISHI』(2016年)や、自身の身体の細部を接写したビデオ作品『FLOW』(2013/16年)など、ドイツ各地で発表。ウィラ鴨川滞在中は、即身仏や僧兵など仏教にみられる過激な現象についてリサーチし、仏教教義や政治的権力との関係などを題材にしたビデオ作品を創作する予定。 laphanelephant.com



布施 英利 (美術批評家、解剖学者) Hideto Fuse (Kunstkritik, Anatomie)

1960年群馬県生まれ。東京藝術大学・美術学部・芸術学科卒業。同大学院・博士課程修了(美術解剖学専攻)、学術博士。その後、東京大学医学部助手(解剖学)などを経て、現在に至る。解剖学をベースに芸術と科学の交差する美の世界を探究している。著書に、大学院在学中に出版した『脳の中の美術館』はじめ、『洞窟壁画を放して』『ヌードがわかれば美術がわかる』『人体5億年の記憶：解剖学者・三木成夫の世界』『子どもに伝える美術解剖学』『体の中の美術館』など多数。



小崎 哲哉 (司会、構成) Tetsuya Ozaki (Moderator)

1955年東京生まれ。ウェブマガジン『REALKYOTO』発行人兼編集長。写真集『百年の愚行』『続・百年の愚行』を編著者として刊行し、現代アート雑誌『ART IT』を創刊した。京都造形芸術大学大学院学術研究センター客員研究員、同大学舞台芸術研究センター主任研究員、同大学院、愛知県立芸術大学講師。あいちトリエンナーレ2013のフォーミングアーツ統括プロデューサーも担当した。2018年3月、『現代アートとは何か』を河出書房新社より刊行。 realkyoto.jp



**GOETHE
INSTITUT
VILLA KAMOGAWA**